



駒林小 学校便り

令和3年度
9月号
9月1日発行

まことの姿

校長 西尾 武泰

長い夏休みと臨時休業期間が終わりました。今年の夏休みは、猛暑の7月を経て、8月中旬からは全国的に記録的な大雨となり、洪水や土砂崩れなども発生しました。横浜では気温が20℃前半になる日もありシャツも半袖では肌寒く、慌てて長袖を出す日もありました。さらに、8月下旬には残暑が戻り、天候や気温の変化に振り回された夏休みでした。緊急事態宣言も発令されていたので、思うように外に遊びに行くこともできず、家の中で我慢した子どもも多かったのではないのでしょうか。それぞれの子どもたちが様々な思いを胸に、今日から学校が始まります。めあてをしっかりとって、1日1日を充実させて大切に取り組んでほしいと思います。

今年の夏休みは2年ぶりに全国高等学校野球選手権、いわゆる夏の甲子園が開催されました。私は開会式の場面を夜のニュースで見たのですが、小松大谷高校の木下選手による選手宣誓がとても心に残りました。宣誓の全文をここには掲載しませんが「1年前、甲子園という夢がなくなり、泣き崩れる先輩たちの姿がありました。」から始まり、「この夢の甲子園で高校球児のまことの姿を見せることを誓います。」と締めくくられました。この宣誓を聞いて、私は駒林小学校の子どもたちの姿を思い浮かべました。楽しみにしていた授業や行事が新型コロナの影響で中止となり、「泣き崩れる先輩たちの姿」のように残念で悲しい気持ちになった子どもたちもきっと多かったと思います。現在も緊急事態宣言が発令されていて、活動には多くの制限がかけられていますが、子どもたちにとって、今がとても大切な時間であり、たくさんの経験から多くのことを学び吸収できる時期でもあります。ですので、これからも子どもたちの学びを止めないように努力を続けていく必要性を強く感じましたし、子どもたちの「まことの姿」を見せられるような機会を出来る限り作らなくてはいけないとも感じました。

神奈川県に発令された緊急事態宣言は12日まで延期となり、デルタ株への置き換わりが進む中で、これまでに経験したことのない感染拡大の局面を迎えています。本校でも感染予防のため分散登校をして学校再開です。これからも感染予防の取組を徹底していきながら学校運営を進めていきますので、皆様のご協力をお願いします。